

学 校 の 沿 革

昭和22年	4月	1日	学制改革六三制実施に伴い、高知県幡多郡小筑紫村小筑紫32番地に学校設置。 小筑紫村立小筑紫中学校と呼称。校舎木造平家建 校庭は小筑紫小学校と併用 初代校長 矢野川 春雄氏着任 生徒数149名 4学級編制
22年	11月	2日	開校式挙行、式終了後村内学校連合運動会挙行
23年	4月	1日	二代校長 池 進氏着任 生徒数 223名
23年	6月	1日	校旗樹立式、この日を開校記念日とする。校旗は、小筑紫町大島宇吉氏寄贈
24年	4月	1日	生徒数 281名
25年	4月	1日	生徒数 305名
25年	11月	3日	町制施行により小筑紫町立小筑紫中学校と改称
26年	4月	1日	生徒数 286名
27年	4月	1日	生徒数 297名
28年	4月	1日	生徒数 259名
29年	3月	31日	町村合併市制施行により宿毛市立小筑紫中学校と改称
29年	4月	1日	生徒数 282名
30年	4月	1日	生徒数 286名
30年	10月	10日	自転車置場設置 (PTA寄付)
31年	4月	1日	三代校長 浜田 兼重氏着任 生徒数 300名
32年	4月	1日	生徒数 286名
32年	4月	1日	理科教育振興法による指定校
33年	4月	1日	生徒数 273名
33年	9月	1日	宿毛市立田の浦中学校と統合、宿毛市立小筑紫中学校と呼称、校舎はそれぞれ旧校舎を使用
33年	12月	19日	理科教育研究発表会
34年	4月	1日	生徒数 372名 9学級編制
34年	5月	30日	宿毛市小筑紫町小筑紫4番地に校舎新築落成式挙行 校地 2711.5坪 建坪 361.5坪
34年	6月	1日	田の浦中学校の両校舎より新校舎へ移転
35年	4月	1日	四代校長 小野 深氏着任 生徒数 392名 (10学級編制 教職員数17名)
35年	9月	14日	産業教育振興法による指定校 (補助金 30万円)
36年	3月	22日	校舎4階増築着工
36年	4月	1日	生徒数 452名 (11学級編制 教職員数 16名)
36年	8月	7日	増築4教室完工引継ぎ
36年	9月	5日	土俵場屋根完工 市有地300坪 (市営住宅南) 借用開墾して農場とする。
36年	12月	11日	自転車置場移転修理、固定工事完工
37年	4月	1日	生徒数 482名 (12学級編制 教職員数 19名)
37年	11月	7日	風呂場、倉庫完工
38年	4月	1日	生徒数 456名 (11学級編制 教職員数 17名)
38年	11月	2日	小松ブルドーザーによる運動場整地 (奉仕作業)
39年	2月	6日	11月に引継ぎ運動場に赤土を入れ整備 (奉仕作業)
39年	3月	16日	3年生記念植樹 (校庭へ松の木400本)
39年	4月	1日	生徒数395名 (10学級編制 教職員数17名)
39年	5月	7日	校門落成
39年	11月	30日	国語教育研究発表会 (高知県教育委員会指定)
40年	2月	24日	バックネット完成、同日、宿毛市教育委員会より引継ぎ
40年	4月	1日	生徒数 441名 (9学級編制 教職員数15名)
40年	11月	1日	屋内体操場起工式

41年 4月 1日 生徒数 340名 (9学級編制 教職員数15名)
 41年 5月30日 屋内体操場落成
 41年10月25日 運動場整備工事完工
 41年10月26日 屋内体操場、運動場落成祝賀式
 42年 2月 7日 校歌制定 (作詞 田辺 省三 作曲 金子 和孝氏)
 42年 4月 1日 生徒数 301名 (9学級編制 教職員数15名)
 42年12月 7日 岩石園完工
 43年12月10日 自転車置場工事完工
 43年 3月30日 屋内体操場増築工事 (シャワー、倉庫) 完工
 43年 4月 1日 五代校長 磯崎 安男氏着任
 生徒数293名 (特殊学級新設 10学級編制 教職員数16名)
 44年 4月 1日 生徒数 280名 (特殊学級1 9学級編制 教職員数16名)
 44年 4月 9日 五代校長 磯崎 安男氏死去に伴い、教頭 示野 平氏 校長職務代理
 45年 3月 9日 校門付近農山漁村集落補供事業として改築工事
 45年 4月 1日 六代校長 酒井 明氏着任
 生徒数257名 (特殊学級1 8学級編制 教職員数15名)
 45年 3月 3日 高知県体育文化賞授与 (相撲)
 45年 3月20日 高知県体育協会賞授与 (相撲)
 45年 3月20日 校門植樹・舗装整備完工
 45年10月 台風10号による自転車置場被害復旧
 45年12月 体育館防球ネット施行
 46年 2月 住宅への防球ネット施行
 46年 4月 1日 生徒数263名 (特殊学級1 7学級編制 教職員数14名)
 46年 5月20日 文部省指定 道德教育研究校
 46年11月10日 玄関前アスファルト舗装、道路沿い新校門建設
 47年 3月15日 石板校名・玄関額 河原 寅喜氏寄贈
 47年 4月 1日 生徒数248名 (特殊学級1 7学級編制 教職員数15名)
 47年 5月10日 校庭緑化事業第2期植樹 (校庭川沿いブロック内)
 47年11月17日 文部省指定道德教育研究発表会
 48年 4月 1日 生徒数255名 (特殊学級1 7学級編制 教職員数14名)
 49年 4月 1日 生徒数218名 (特殊学級1 6学級編制 教職員数14名)
 49年11月29日 高知県教育文化賞受賞
 49年12月10日 保健安全教育研究発表会 (昭和49年度県指定)
 50年 2月13日 安全教育優良校として受賞
 50年 2月13日 川沿い防球ネット施行
 50年 4月 1日 七代校長 松尾 静夫氏着任
 生徒数222名 (6学級編制 教職員数14名)
 51年 4月 1日 生徒数201名 (6学級編制 教職員数14名)
 52年 4月 1日 八代校長 畠中 豊氏着任
 生徒数190名 (6学級編制 教職員数15名)
 53年 4月 1日 生徒数176名 (6学級編制 教職員数14名)
 54年 4月 1日 九代校長 山本 卓氏着任
 生徒数153名 (6学級編制 教職員数14名)
 55年 2月 5日 校舎改築工事決定
 55年 4月 1日 十代校長 示野 平氏着任
 生徒数157名 (6学級編制 教職員数15名)
 55年10月 3日 新校舎建築に伴う仮校舎への移転
 55年10月21日 新校舎起工式
 56年 4月 1日 生徒数171名 (6学級編制 教職員数14名)
 56年 7月30日 新校舎落成に伴い移転
 56年 8月20日 体育館塗装並びに付属便所設立竣工
 56年 9月 5日 新校舎落成式挙行並びに校舎新築記念碑建立

	56年1	1月28日	新校舎前つつじ花壇作業開始 12月中旬完成
	57年	2月3日	クラブ員の更衣室並びに備品置場(部屋6)完工
	57年	1月8日	教材造園作業開始 2月完成
	57年	2月6日	倉庫完成(新校舎裏)
	57年	4月1日	生徒数174名(6学級編制 教職員数14名)
	57年	5月31日	焼却炉完成
	57年	6月21日	高知県教育委員会主催による中・高連絡教科協議会の会場校指定発表会(国語科)
	57年	8月31日	校門並びに校庭のブロック塀完成(約90米)
	57年	9月5日	土俵完成
	58年	4月1日	生徒数176名(6学級編制 教職員数14名)
	58年1	1月4日	学校給食開始
	59年	4月1日	十一代校長 谷川 善文氏着任 生徒数167名(6学級編制 教職員数14名)
	59年	6月25日	自転車置場前の舗装工事完了(85米)
	60年	4月1日	生徒数180名(6学級編制 教職員数14名)
	60年	4月1日	昭和60・61年度文部省指定道徳教育推進校(協同推進校)
	61年	3月10日	卓球室完成(屋内体育館倉庫改造)
	61年	4月1日	生徒数178名(6学級編制 教職員数14名)
	62年	4月1日	生徒数174名(6学級編制 教職員数14名)
	62年	8月31日	屋内体育館床改修
	62年1	1月13日	プレハブ倉庫運動場へ設置
	63年	4月1日	十二代校長 横山 幸雄氏着任 生徒数169名(特殊学級1 7学級編制 教職員数16名)
平成	元年	4月1日	生徒数159名(特殊学級1 7学級編制 教職員数16名)
	元年	4月1日	平成元年度心の教育推進スクラム事業の指定
	2年	4月1日	生徒数169名(特殊学級1 7学級編制 教職員数17名)
	2年	4月1日	初任者研修制度開始(2名受入れ)
	2年1	0月4日	プール完成
	3年	4月1日	十三代校長 浜田 祐作氏着任 生徒数153名(6学級編制 教職員数15名)
	3年	9月	ピアノ一台(体育館用)旧石原小学校より移管
	3年1	0月	全国教育美術展(図画)学校賞受賞
	4年	1月	校庭南側防球ネット完成
	4年	4月1日	十四代校長 清水 淳平氏着任 生徒数140名(5学級編制 教職員数11名)
	4年	8月21日	屋内体育館照明を水銀灯へ取替え工事完了
	4年	8月24日	本館各階男子トイレ補修、屋内体育館雨漏り(天井)補修
	4年	9月12日	学校教育制度の改革により、学校週5日制導入開始、本年9月より施行、第2土曜日休日
	5年	1月21日	全国教育美術展(図画)学校賞受賞
	5年	4月1日	生徒数132名(特殊学級1 6学級編制 教職員数14名)
	5年1	0月5日	十四代校長 清水 淳平氏死去に伴い、教頭 金子 和孝氏校長職務代理
	6年	4月1日	十五代校長 金子 和孝氏着任 生徒数130名(特殊学級1 6学級編制 教職員数14名)
	7年	4月1日	生徒数137名(特殊学級3 9学級編制 教職員数19名)
	7年	4月1日	学校教育制度の改革により、学校週5日制は、本年度より月2回休日(第2土曜日・第4土曜日)
	7年	6月30日	特殊学級増設(プレハブ2教室)
	7年	9月17日	グラウンド散水施設設置
	8年	4月1日	十六代校長 嶋 統一氏着任 生徒数127名(特殊学級2 7学級編制 教職員数15名)

9年	4月	1日	十七代校長 乾 溜氏着任 生徒数120名(特殊学級3 7学級編制 教職員数15名) 開かれた学校づくり推進委員会設置(9月、12月、1月)	
10年	4月	1日	十八代校長 澤田 英一氏着任 生徒数111名(障害児学級2 6学級編制 教職員数13名)	
11年	4月	1日	生徒数101名(障害児学級1 4学級編制 教職員数11名) 平成11・12年度「高知県ゆとりと生きる力を育む教育推進事業」 「中学生の体験活動に関する研究指定校」を受ける。	
11年	4月	11日	玄関前アスファルト舗装工事完了	
12年	4月	1日	十九代校長 溝渕 幸三氏着任 生徒数109名(障害児学級2 6学級編制 教職員数13名)	
12年	9月	14日	パソコン40台設置	
13年	3月	8日	2年間の「中学生の体験活動に関する研究指定校」の指定研究終了	
13年	4月	1日	生徒数107名(障害児学級2 6学級編制 教職員数13名)	
14年	4月	1日	生徒数100名(障害児学級2 6学級編制 教職員数13名)	
15年	4月	1日	二十代校長 岩井 正道氏着任 生徒数85名(障害児学級2 5学級編制 教職員数12名)	
16年	4月	1日	生徒数80名(障害児学級2 5学級編制 教職員数12名)	
17年	4月	1日	生徒数67名(障害児学級2 5学級編制 教職員数13名) 駐車場の舗装 倉庫の設置	
18年	4月	1日	二十一代校長 小花 典明氏着任 生徒数49名(3学級編制 教職員数11名)	
19年	4月	1日	生徒数55名(3学級編制 教職員数11名)	
20年	4月	1日	生徒数55名(3学級編制 教職員数11名)	
21年	4月	1日	二十二代校長 岡本 明美氏着任 生徒数58名(3学級編制 教職員数11名)	
21年	9月		小学校新校舎建設につき中庭撤去、技術棟縮小、テニスコート移転 完成	
22年	4月	1日	生徒数46名(特別支援学級1 4学級編制 教職員数12名)	
23年	2月		小筑紫小中学校新体育館完成、旧小筑紫中学校体育館撤去	
23年	4月	1日	生徒数33名(特別支援学級1 4学級編制 教職員数12名)	
24年	4月	1日	二十三代校長 鳥谷 安彦氏着任 生徒数39名(特別支援学級1 4学級編制 教職員数12名)	
25年	3月	29日	耐震工事完了	
25年	4月	1日	生徒数38名(3学級編制 教職員数11名)	
26年	4月	1日	生徒数47名(3学級編制 教職員数11名)	
27年	4月	1日	二十四代校長 島田 義富氏着任 生徒数39名(3学級編制 教職員数11名)	
28年	4月	1日	生徒数42名(特別支援学級2 5学級編制 教職員数13名)	
	4月	3日	職員室・校長室・家庭科室の壁紙張替え工事完了	
29年	4月	1日	生徒数35名(特別支援学級2 5学級編制 教職員数13名)	
	9月	14日	普通教室・特別支援学級教室エアコン設置完了	
30年	4月	1日	生徒数33名(特別支援学級1 4学級編成 教職員数13名)	
31年	3月	29日	家庭科室床張り替えとガス管理設工事完了	
31年	4月	1日	二十五代校長 山脇 雅史氏着任 生徒数27名(特別支援学級1 4学級編成 教職員数12名)	
令和	2年	4月	1日	二十六代校長 吉福 巧氏着任 生徒数25名(3学級編成 教職員数12名)
		3月		会議室、玄関、理科室の壁の張替え工事完了
	3年	4月	1日	生徒数25名(3学級編成 教職員数11名)
		4月	5日	小中一貫教育校「つくし学園」除幕式 小中一貫校の開始

4年 4月 1日 生徒数26名（3学級編成 教職員数10名）

地域の概要

小筑紫町は宿毛市の南部に位置する町である。小筑紫の地名は平安の昔、右大臣菅原道真が大宰府権帥として筑紫（九州）に行く途中、暴風雨に遭い宿毛湾のこの地に漂着した時「ここが筑紫か」と問うたことから小筑紫という地名が生まれたといわれる。またその時、七日間船を留めたので、つけられたという七日島があるが、今は陸続きの小山になっている。

地域区分としては、宿毛湾の内湾漁村地域、二河川（伊与野川・福良川）地域の農村地域、町の中心部に当たる商店地域に分けられる。平地30%山地70%で形成されている。

往時宿毛湾は鰯網漁、沿岸底引き網漁としては日本屈指であったが、今はその面影もなく、漁業の大部分は湾面利用による養殖漁業である。農業は主として稲作で、他に葉タバコ、野菜等が作られる。旧田の浦小学校区は昔から傾斜地利用の柑橘栽培が盛んで、現在でも栽培農家は多い。いずれも兼業農家が多く、専業といえる世帯は極めて低率である。また、宿毛の市街地にも近い関係から商店勤めや看護師・介護師等も多く、父母の共働き、土木建設業、公務員の割合も比較的高い。ただ、一人親の割合が高く、経済的には厳しい家庭が多い状況が続いている。

平成21年度に校区内の田ノ浦小学校と小筑紫小学校が統合し、続く22年度に小筑紫小学校と栄喜小学校が統合し、小学校1校、中学校1校となった。児童生徒の通学距離は自転車で30分以内がほとんどである。保護者の教育に対する関心は高く、PTA活動や学校行事等への理解があり、積極的な協力が得られる。反面、全国共通ともいえるが、児童生徒への基本的な生活習慣に関する躰の弱さからか、学校教育に依存する側面もみられる。それは、核家族化及び共働きの傾向により、児童生徒と深く接する時と場が少なくなった結果だと考えられる。

生徒の実態

本年度4月現在の生徒数は26名である。本年度は11名の新入生を迎えスタートしたが、例年部活等の関係で他の中学校へ進学する生徒もおり、今年度も男子生徒1名が本校以外の中学校に進学した。最近の小学校の入学児童の状況等を見ると、この先5～6年程度は20人以上の規模の学校を維持できるものと思われる。ここ数年は部活動や家庭の事情等で町外への進学者が数名程度いたが、近年は小中一貫教育を推進してきたことで全体的に減少傾向にある。

全体的には素直でおとなしく、無邪気な生徒が多いが、学力の定着においては心配される生徒も数名いる。指示された事には真面目に取り組めるが、主体的に取り組む姿勢がまだ身についていない生徒が多い。

令和3年度より小中一貫校「つくし学園」としてのスタートを切った。9年間の学びの中で「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むために、スローガンを「夢に向け努力を続けるつくしの子」と掲げ、小学校と共に取り組んでいる。小中の管理職の会（つくし会）を月に一回持ち、教職員同士の交流、児童生徒の交流、授業の交流を計画し、9年後のゴールを明確にし、一人ひとりの進路実現のために、全教職員共通理解のもと、“鍛える”をあい言葉にして、生きる力を育成していきたい。